

「誰もいないはずの部屋で、

子どもが座っているのが見えるんです」

今、注目されているレビイ小体型認知症とは？

この1、2年テレビの番組などでレビイ小体型認知症の特集が何回か組まれ、名前だけは耳にしたことがある人も多いと思います。

この病気はレビイ小体という物質が脳内に沈着することで、いろいろな症状が生じる疾患です。日本では認知症を示す病気の中では、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症に次ぐ頻度（全体の約10〜20パーセント）で、実はかなり多い病気です。次に具体的な症状を説明します。

### ① 認知障害と精神症状

物忘れなどの認知症状は日内変動、または日によっての大きな変化が目立つことが特徴の一つです（起床後や昼寝の後などではボーッとしたり顔つきでとんちんかんな話が多いが、しばらくすると顔つきもすっかりとして話もスムーズに通じる、昨日はとても調子が良かったのに、今日は何を言っているのかわからないなど注意や意識の明晰さに著明な変動が見られる）。また、

気分や態度の変動も大きく、全く穏やかな状態から無気力状態、興奮、錯乱といった症状を一日の中でも繰り返します。初めは鬱症状で発症し、しばらくして、物忘れや幻視が出現してこの病気と分かる場合もあります。

### ② 繰り返し起こる具体的な幻視

もう一つの認知障害の特徴は初期より幻覚、特に幻視が頻繁に現れることです。アルツハイマー病とは違って生き生きとした色彩や形を帯びた具体的な幻視を何回も言うことが多いためです（赤い服を着た小さな子どもが部屋に勝手に入って悪さをする、壁に虫が這っているなど）。

### ③ パーキンソン症状

全体に動作が緩慢になり、歩行が遅く、不安定になり転倒しやすくなります。このためパーキンソン病と診断されることも少なくありません。

### ④ 自律神経障害

4番目の特徴は自律神経の



佐伯地区医師会  
さいとう・ゆうじ  
斉藤 裕次先生

障害を伴う点です。このため、アルツハイマー型認知症とは違い、比較的初期より尿便失禁や突然の意識障害が見られることがあります。レビイ小体型認知症で注意しなければならぬ点は、幻覚や精神症状を軽減するために使われるある種の抗精神病薬や抗認知症薬であるアリセプトに過敏性を示すことがあり、歩けなくなったり、これらを投与されることで状態がとて悪くなることがあることです。逆に少量のアリセプトが劇的な効果を示すこともあり、薬の種類や量には細心の注意が必要な病気です。

## なるほど!! 健康講座

問合せ 廿日市市保健センター ☎ 0820 1610